

■ 患者管理ソフト 「達人プラス」(ナルコーム) の活用



図1 患者管理ソフト「達人プラス」(ナルコーム社)。

あらゆる業界やさまざまな分野でデジタル化が進んでいるが、皆さまはデジタルトランスフォーメーションの概念をご存知だろうか。デジタルトランスフォーメーション (Digital transformation : DX) とは、「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でよりよい方向に変化させる」という概念であり、おおむね「企業がテクノロジーを利用して事業の効率化や対象範囲を根底から変化させる」という意味合いで用いられる。

特にここ数年のデジタルテクノロジーの進化によって、AI（人工知能）やロボットをさまざまなビジネスに活用できるところまで辿り着かせることができた。金融分野においては、ビットコインおよびその他のアルトコインを代表とするデジタル通貨の台頭によって、既存通貨あるいは金融システムのこれまでの概念が根底から覆されるような創造的破壊が、まさに起ころうとしている。また、5G通信網の普及に伴う自動運転等、最新テクノロジーの台頭により、すべての業界が“変革待ったなし”的な状況に追いやられている。まさに、明治維新の産業革命に匹敵する“大きな時代の変革期”にわれわれはいるということを忘れてはならない。

これらの進化は歯科業界も例外ではなく、幅広い分野での活用が進んでいる。医療法人社団マハロ会ではデジタルネットワークの構築を随時進めており、特にナルコーム社の「達人プラス」(図1)を、データ管理、患者教育等、多岐にわたって有効活用している。マハロ会のクリニックを簡単にご紹介すると、法人としては東京、千葉、埼玉に5軒のクリニックを運営しており、本院が埼玉県越谷市にある「かみむら歯科矯正歯科クリニック」である。当会はすべてのクリニックが“かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所”として予防歯科を最重要視した運営を行っており、特に本院では1日あたり約300人が来院

上村英之

医療法人社団マハロ会 かみむら歯科矯正歯科クリニック



図2 初診時の歯周検査と衛生実地指導の記録画像。患者さんに現状を認識、より理解していただくため、プリントアウトした資料をもとに磨き残しが多い部位、歯面の場所を伝え動機づけを図る。

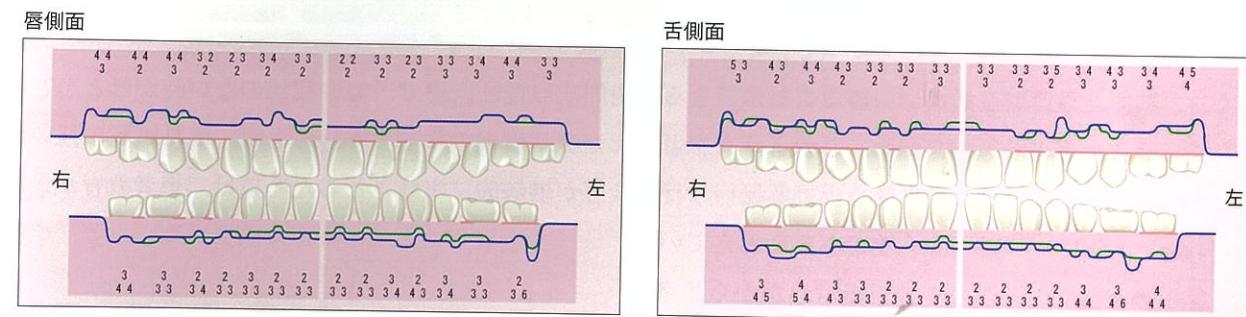


図3 歯周検査1・2の比較画像。歯周検査の比較画像をビジュアル化し、ポケット数値・出血部位の改善が一目瞭然で理解できるため、今後の治療や予防へのモチベーション向上につながる。

し、その7割が予防の患者さんで、歯周病定期に入りSPT IIで管理している患者さんの数は2019年11月時点で1,400人／月にまで及んでいる状況である。その他、小児のう蝕予防管理でも定期的に来院される患者は多数で、このような規模に発展できた理由は以下の3点をしっかりと継続してきたことに由来すると考えている。①患者教育の徹底、②患者さんに“よくなつた実感”をもたせる、③クオリティーの高い施術。

特に①については「達人プラス」を使うことで、歯周検査や衛生実地指導等の入力を歯科衛生士1人で短時間かつ簡便にできる(図2・図3)ため、その分患者さんとの会話の時間が多くとれ、患者さんの治療や予防に対する理解を

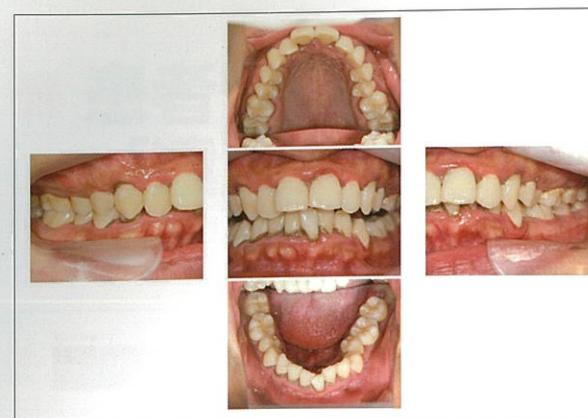


図4 初診時規格写真（5枚法）。歯周検査結果だけでなく口腔内写真を見てもらうことで強い動機づけとなり、治療や予防に対する患者さんの意識が上がる。



図5 歯周病定期治療（SPT II）初回時規格写真。歯肉の改善等、SPT II初回においては目に見えて変化が感じられるため、今後の予防を中心としたメインテナス継続への意識が高まる。

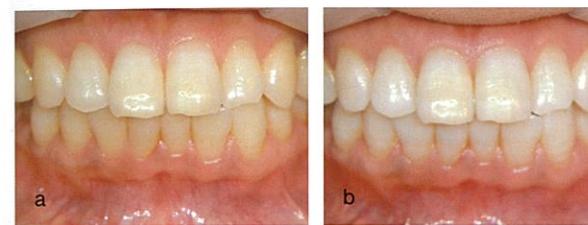


図6 ホワイトニングの術前・術後（a・b）とMFT治療経過（c・d）。歯周治療以外にもホワイトニングのビフォーアフターの比較やMFTの経過観察など、目の前のモニターで容易に確認でき、患者さんの満足度が高い。

深めることができる。歯周病は慢性疾患で、急性症状のない時がほとんどである。このような患者さんが生活習慣の中で3カ月に1回、歯科医院に通い、予防を受けるという行動変容が継続的に実践されるためには、患者教育が最も重要なと考えている。データを取るだけの作業になってはならない。データを提示しながら患者さんとともに改善の目標を設定して、それを達成していく。歯周検査を進めていく中で、歯周ポケットの数値が改善していくことや5枚法で撮影した口腔内写真（図4・図5）で歯肉の経時的变化を視覚的に見てもらうことで、「よくなった」ことを患者さん自身に実感してもら（②）、共に喜ぶことが重要である。しかし、3カ月ごとの施術が痛くて辛いものだと長続きしないため、クオリティーの高い技術が必要になってくる（③）。この3つがすべて実践されることが予防歯科成功の秘訣だと思っている。

以下、当院での「達人プラス」活用事例を紹介する。

・歯周検査、衛生実地指導に活用

plaquesの付着部位を入力するだけでPCRを素早く算出できたり、歯周ポケット検査などのデータを歯科衛生士単独で簡単に入力可能で、検査結果をインフォームドコンセントの確立や動機づけのための資料としてユニットサイドで素早く提示できるだけでなく、過去情報との比較や検査結果をわかりやすく

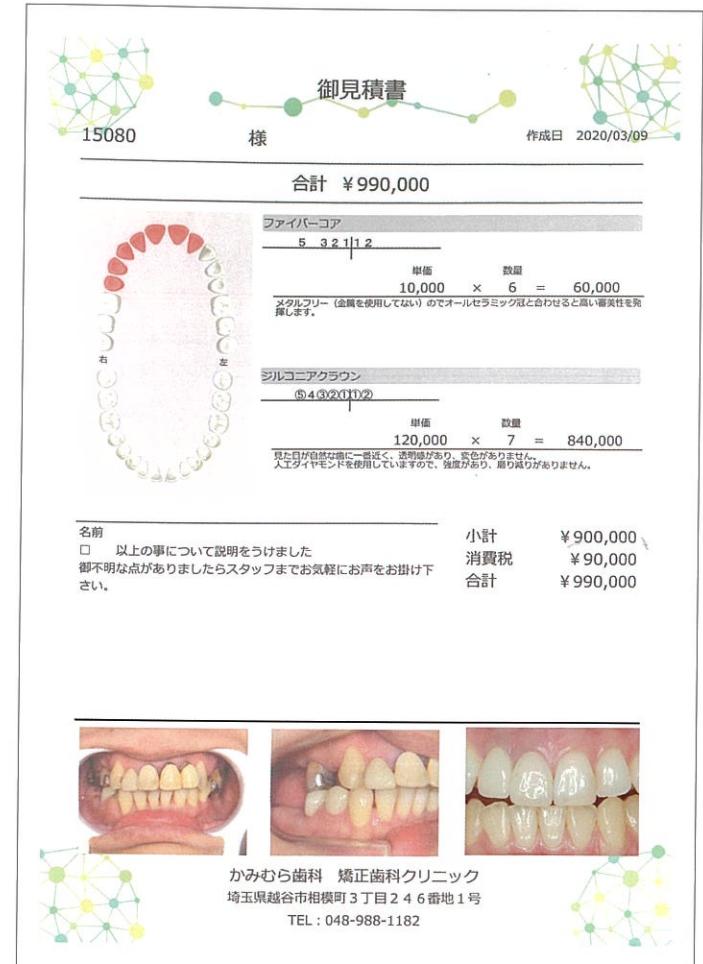


図7 見積書。



図8 補綴治療の術前・術後の比較（ジルコニアブリッジ）。

ビジュアル化した資料として、プリントアウトして患者さんに渡すことができる。この資料によって患者さんはご自身の口腔環境とより向き合うことができ、治療や予防への意識を高めることができる。

ユニットに座った状況で受けた説明内容の理解度は50%もないと言われる中、帰宅後に患者さん自身がそれらの資料を見返すことで理解度がさらに深まる有効なツールであると考えている。

・写真・エックス線画像管理

当院の患者総数は2019年12月時点で28,000人と膨大な数になっているが、ID番号を入力するだけで瞬時に見たい画像を取り出すことができ、データ管理にとても有効に活用している。また、口腔内写真、パノラマやデンタルエックス線画像を取り込むだけでなく、5枚法などの規格写真も簡単にレイアウトすることができる。ユニットサイドでの説明の際には、必要な画像を複数枚、同時に拡大表示したり、画像に書き込みをするなど豊富な編集機能があるので、ケースバイケースの説明が自在にできる。説明に使用した画像は、きれいに印刷して患者さんに持ち帰ってもらうことにより、ここでも治療への理解を深めてもらえる。

・見積機能（図7）

簡単操作で見栄えのよい見積書が作成可能である。口腔内写真や説明資料と一緒にレイアウトすることができるため、治療内容をより伝えやすい見積書を作成できる。

以上、「達人プラス」の活用をはじめとした“医院のデジタル化”を積極的に進めていく一方で、患者さんのニーズに沿った情報を発信し続け、クオリティーの高い施術を行うことで、カスタマーエクスペリエンスの向上につながり、それによってマハロ会の企業理念である「予防歯科を通じて国民の健康と幸福に寄与する」ことが達成できるとかたく信じている。